

5年 単元名「野外教室で富戸の自然を生かし自分を広げよう」(4時間)

1 単元設定の理由

富戸小では5年生になると、1泊2日で学校に宿泊し、海や山、近隣の施設へ出かけて様々な体験活動を行う「野外教室」を長年行っている。市内の他校では、市外の自然の家等を利用した宿泊体験を行うところがほとんどであるが、恵まれた自然環境を生かした活動を実施することにより、郷土の自然のすばらしさを肌で感じ、その価値を知り大切にしようとする心情を醸成することをねらい、学校宿泊を続けている。

一番身近な自然環境は、なんと言っても「海」であり、海を生業としている保護者や地域住民も多い。しかし海のすぐ近くに住んでいるとはいえ、最近の子どもたちと「海」との結びつきは、年々薄いものとなりつつある。そこで例年、保護者や地域の方を講師に迎え、1日目の前半の活動にスノーケリングを実施している。

宿泊訓練という形態をとりながら、身近な自然に接する機会をもち、集団の一員としての協力性や自主性を育み、自分の体験活動の幅を広げ高学年としての自覚を促す意味でも、この行事はかけがえないものとなっている。

2 単元目標

- (1) 集団生活を通して、集団の一員であることを自覚し、自主的・実践的な態度を育てる。
- (2) 集団生活の中で、協力し合いながら生活することによって、思いやりの心を育てる。
- (3) 自然に接し、自然を生かし活動することを通して、自分の体験活動を広げる。

3 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	スノーケリング体験を始めよう(バスで払港に移動) ・講師との対面、あいさつ ・体験学習の流れ 説明 ・豊かな富戸の海(絵本による生き物紹介)	・講師に、事前に個人の泳力やグループングについて情報を提供しておく ・富戸の海の生き物を絵本で紹介し、活動に興味を持たせる
2	準備にかかろう ・ウエットスーツ着用のしかた、フィンの使い方、マスクの使い方、耳抜き等 ・準備運動 ・海の中に入ったら	・フィンとマスクは助成で購入した新品であり、今後使用していくので大事に使うよう話す ・1と2で、水に恐怖心を抱きがちな子をリラックスさせる
3	港の中に入ってみよう ・体勢の取り方(体を楽に) ・呼吸のしかた、進み方 ・何が見えるかな (昼食休憩)	・穏やかな港内で、体をリラックスして浮かんだり泳いだりし、成功体験を積み、自信をもたせる
4	港の外に出てみよう ・ダイバーさんの出入り口から外海に出る ・体勢の取り方(波を乗り越える) ・生き物探し(捕獲してみよう) ・感想発表	・さらにきれいな外海に出て、見える景色の美しさや、生き物を捕獲する楽しさが十分に味わえるようにする ・生き物は全グループ集め、観察した後、海に戻す
外部連携 / 教材等 ・写真絵本「海のなか のぞいた」・・・本校保護者の親子が富戸の海をスノーケリングして見つけた生き物や海の様子を撮影したもの ・本校学校評議員の声かけで、地元のダイバー(保護者含む)6名		